

櫻

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

成田市立中台中学校 学校だより

発行：内田 淳

令和5年 4月28日（金）Vol.04

「仲間も、自分も、大切にしよう」

「あきらめずに、取り組もう」



【ホームページへ】

中学校に慣れたかな？

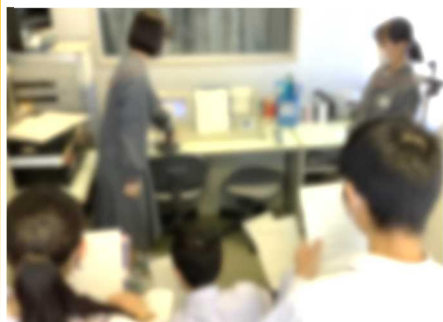
1年生が入学して3週間が経ちました。授業はもちろん、部活や委員会なども動き始め、軌道に乗ってきたように思います。緊張もすっかりほぐれ、休み時間には元気な声が響きます。授業中も、反応がよく、頷いたり笑ったりしながら、学習に取り組んでいます。

出身小学校はそれぞれでも、中台中の一つ屋根の下で、絆を、さらに深めてほしいものです。

悲しいことを分かち合って軽減し、うれしいことや楽しいことを分かち合って倍増できるような、そんな集団であってほしいと願います。



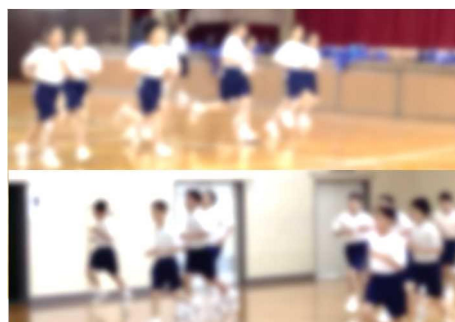
【1学年職員】



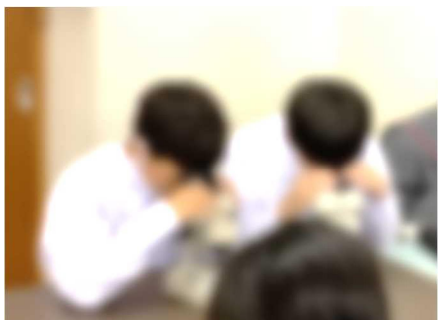
【放送委員会では、先輩から機器の使い方について教わりました】



【生徒総会の議案書の読み合わせ。3年生が見守る中で進めます】



【走れ走れ、シャトルラン！この日は男女合同で体力測定をしました】



【理科の授業でタンポポの花を観察。顕微鏡でミクロの世界に挑め！】



【美術の授業はタブレットでイラストを描きます。アイデアを出し合おう】

まもなく5月の大型連休も始まります。1年生のみならず、2、3年生も、ほっと緩んだ瞬間に体調を崩したり、落ち込んだ様子を見せたりすることが、あるかと思っています。

ご家庭でも、お子さんとコミュニケーションをとるなどして、この1ヶ月をゆっくりと振り返ってみるとよいでしょう。

気になることがあれば、お気軽に学校まで、ご連絡ください。

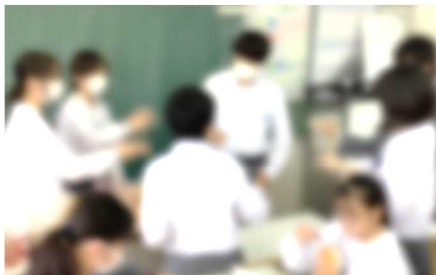
お弁当と給食と感謝の心

25日(火)、26日(水)と、給食センターの設備の不具合があり、各家庭に、昼食を準備するようお願いしました。急なご連絡になり、誠に申し訳ありません。また、ご理解、ご協力をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、生徒たちは、充実のランチタイムを過ごすことができました。

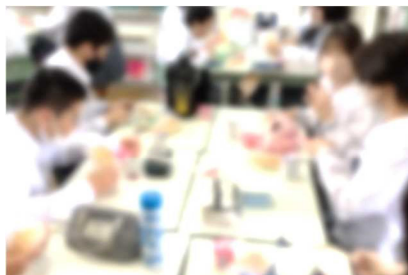
「保護者の皆さんは、お弁当を作るために、急いで買い物に行ったのだろうか。朝、いつもより早く起きたのだろうか」…など、各家庭の苦労もしのばれました。

特に、26日(水)は、牛乳のみの配付となったため、生徒は様々なお弁当を広げていました。

食べることは、単なるエネルギー補給にとどまらず、生活の潤いや、心身の癒やし、活力の源になるなど、人間にとって大切な営みです。「いただきます！」と手を合わせて唱和し、蓋を開けたときの生徒の表情ときたら、まさに幸せそのものでした。



【25日の給食で、ヨーグルト争奪ジャンケンに集いし勇者たち。勝敗の行方は？】



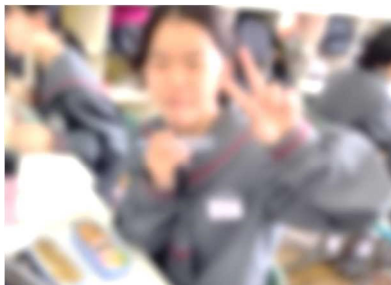
【パンを片手に、持参したおかずを食べています。おにぎりを追加した人も】



【何でもおいしく食べられる中学生。若いって素晴らしい】



【お弁当に関わった、全ての方々と、生きたし生けるものに心から感謝】



【思わずVサイン。お弁当の前では、誰もが幸せになれます】



【生徒の手作り弁当の一例】

～お品書き～
ゆかりごはん 卵焼き 揚げ物
ウインナー 野菜炒め などなど

各教室の様子を見ながら「弁当を自分で作った人は、いますか？」と尋ねたところ、各学年に1、2人の生徒が手を挙げていました。全て自分で調理をした人、用意してもらったものを詰めただけの人、おかずの一部を調理した人などなど、いろいろです。

何事も、「習うより慣れろ」と言います。朝の時間の無い中、ゼロから自分で作るのはいへんでも、連休中など、時間のあるときに、ウインナーを炒めたり、ご飯を炊いて盛り付けたり、そのような簡単なことから挑戦してみるのも、成長につながります。また、家族の皆さんも、助かるでしょうし、うれしく思うものです。「料理なんて、したこと無い！」と思った人も、「誰でも最初は1年生」です。ぜひ、やってみてください。

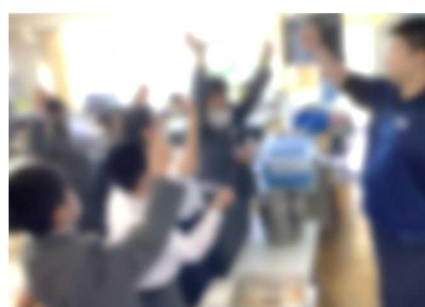
そして、27日(木)から、給食が、当初の献立表の通りのメニューで、再開されました。当番の生徒は、いそいそと白衣を着て、給食の準備に取りかかりました。待っている生徒も、にこにことうれしそうで、学校全体が、安堵感に包まれたようでした。



【てきぱきと働く3年生の給食当番。流れるように給食を盛り付けます】



【準備完了！あとは「いただきます」をすするだけの2年生】



【1年生のおかわりジャンケン。狙うはハンバーグ。いざ尋常に勝負！】

毎日来るものと思っていた給食も、トラブルによって、途絶えることがあるのですね。

当たり前前なのが、当たり前前に維持されていることのありがたさや、維持してくれる方々の努力や苦労など、いろいろなことを考えさせられた2日間でした。